



Agri Note 菜園

アグリノート菜園情報

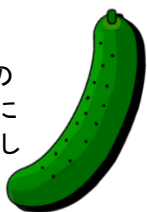


JA福井県

6月は気温の上昇と共に新緑の時期となります。野菜については生育も旺盛となり、栽培管理や夏野菜の収穫作業等の作業面で忙しい時期に入ります。病害虫対策や整枝など、早め早めの対応を行いましょう。また、中旬からは梅雨の時期を迎えます。この時期は降雨による多湿の影響で生育不良、泥の跳ね返りによる病気が発生しやすい時期ですので、防除に重点をおくとともに十分な排水対策を行いましょう。また、体調を崩しやすい時期でもあるので、体調管理にも十分気を付けて農作業に取り組みましょう。

1. きゅうり

6月のきゅうり栽培で一番大切なのが、病気の早期発見と予防です。うどんこ病やべと病などにかかったら症状のひどい葉を取り、薬剤で防除して、病気の広がりを早めに抑えましょう。



■べと病

- 梅雨時に葉の表面に角ばった黄色い斑点が現れます。

■うどんこ病

- 粉を吹いたような白い斑点が葉の表面に現れます。

■ウリハムシ

- 5月以降に現れ、オレンジ色で空中を飛び回ります。



収穫は、最適な時期を逃すとあっという間に大きくなりすぎて味が落ちてしまいます。タイミングに注意しましょう。



2. 大玉トマト

雨が続きと収穫間際だった果実が裂果する可能性があります。可能であれば支柱にビニールをかけるなどの雨よけ対策を行いましょう。またうどんこ病や灰色かび病が発生しやすい時期でもあるので、しっかりと薬剤で防除を行いましょう。

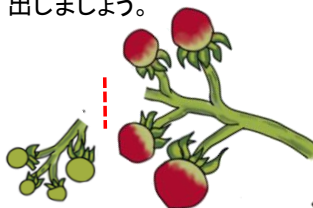


■摘果・摘葉

- 着果数は1段に3～4個までとしましょう。着きすぎた場合は小さいうちに摘み取ります。
- 葉が混みあっている部分や病気の葉は適宜摘み、圃場の外に出しましょう。

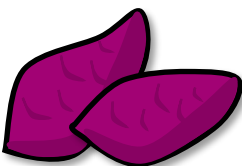
■灰色かび病

- 葉や果実に水浸状の病斑が現れた後に、灰白色～褐色のかびに覆われます。



3. サツマイモ

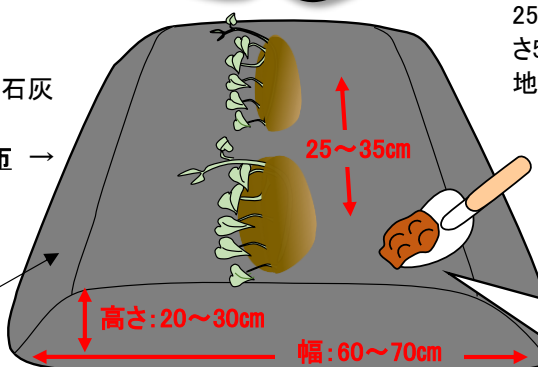
たった数株から、たくさん収穫できるのがサツマイモです。一度植え付ければ、あまり手間がかからないのもサツマイモ栽培のメリットです。収穫時期となる秋に向け、今からでもサツマイモにチャレンジしてみませんか？



■圃場準備について

- 2週間前：完熟たい肥と苦土石灰を入れて深く耕しましょう。
- 1週間前：①化学肥料の散布 → 畝立て → マルチ張り
- 植え付け：②定植の時期は5月下旬～6月中旬まで。

黒マルチを使用
(保温・雑草対策)



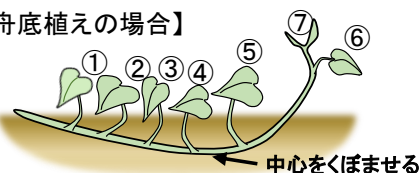
①化学肥料の散布

1㎡あたり50gを目安に施肥し、よく耕しましょう。(土壌が肥えすぎている場合は施肥しなくてもよい。)

②定植

25～30cm程度の苗を、株間25～35cm、深さ5～10cmで、埋没しないように5～6節が地中に入るように植付ける。

【舟底植えの場合】



植付け後に株元に土を盛りマルチ穴をふさぐ。(葉焼け防止)